

補助第288号線のボックスカルバートをやめて、道路を非浸水高さに設置することを求める陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第73号

受理年月日 令和7年5月30日

付託年月日 令和7年6月12日

陳情者
.

陳情原文 篠崎公園地区高台まちづくりでは、江戸川との一体整備を図り、緊急避難場所の充実を図るとされています。具体的には、堤防から公園になだらかな斜面を構成し、高台公園と高規格堤防の上面とを活用した高台まちづくりであるとされています。

また、篠崎公園地区の下流側、京葉道路までの区間で、都県橋も視野にいたした篠崎周辺地区高台まちづくりが新たなモデル地区として検討が開始され、広域避難を見据えた篠崎公園の防災拠点としての機能を充実する計画としようとしています。

想定最大浸水深さよりも高く設置される篠崎公園は、緊急避難場所であると同時に、貴重な高台防災拠点としての役割を果たしてくれるものと期待できると思います。

ところが、篠崎公園地区高台まちづくりでは、高規格堤防盛土や公園盛土の中にボックスカルバートを設置して補助第288号線を通す計画になっています。このボックスカルバートは、高規格堤防等の盛土部分の約300mをトンネル構造とすることになっており、その道路面は最大浸水深さよりも低く、車両通行が不可能となると予想されています。

そこで、補助第288号線のボックスカルバートをやめて、道路を非浸水高さに設置することを求めたいと思います。道路面を盛土の上面に設置することにより、篠崎公園に一時的に避難した人々をより安全な場所へと移動する交通手段として、また、復旧対策の拠点として車両や重機を使うことを是非ご検討いただきたいと考えます。せつかく新設する道路を水没させるよりも、防災機能として格段の向上が見込まれるのではないかと思います。

このボックスカルバートをやめて盛土の上面に道路を敷設する方法は、設置費用、維持管理費用、更新撤去費用等を含めた費用の面でも、ボックスカルバートよりも優位であるのではないかと考えられます。ボックスカルバートは、設置にあたっての総費用もさることながら、区の負担も発生するのではないのでしょうか。

(裏面に続く)

また、底面の杭などによる支持構造敷設の費用も少なくはないでしょう。さらに、供用開始後の維持管理費用は長期にわたり区の単独負担となるのではないのでしょうか。それに対して、堤防上面と同じ高さに道路を敷設するのであれば、設置費用も、支持構造費用も、維持管理費用もずっと小さく抑えることができるのではないかと推察されます。

さらに、篠崎地区と同様に高台まちづくりのモデル地区になっている荒川の舟渡・新河岸地区（板橋区）では、堤防の天端道路を利用したバスなどの車両による避難経路の確保が、流域治水プロジェクト2.0で検討が追加されています。また、葛飾区が東京都と進めている新小岩公園再整備事業においては、中川堤防と接する部分を堤防天端と同じ高さで整備し、堤防天端との接続のみならず、都道315号線、平井大橋を経由して、首都高速道路中央環状線との接続を想定しています。都道をボックスカルバートとするようなことは計画されていません。

つきましては、下記のとおり陳情いたします。

記

補助第288号線のボックスカルバートをやめて、道路を非浸水高さに設置することを求めます。